

防災について

考えてみましよう!!!

地震

台風

津波

自助

火災

避難

高潮

土砂災害

備え

公助

共助

家族

災害は忘れたころにやってくる

誰でも、自分の身に起こって欲しくないこと、起こっては困ることから目をそらせたいものです。それでも起きたときどうするのか、常日ごろからどうしておかなければならないのかを考えて、いざというときに備えておくことが大切です。



今後30年以内に50%以上の確率で発生するといわれる東南海・南海地震

香川県では90年から150年ごとに、南海トラフを震源とする地震によって、大きな被害が発生しています。過去の南海地震について、振り返ってみましょう。

地震名 発生年月日	規模・震度	震央	県内の被害状況
宝永地震 1707年10月28日	M8.4	紀伊半島沖 北緯 33.2° 東経 135.9° 深さ -	我が国で最大級の地震の一つ 全体での死者4,900人、潰家29,000軒 香川県では、死者28人、倒壊家屋929軒 五剣山の1峰が崩落
安政南海地震 1854年12月24日	M8.4	紀伊半島沖 北緯 33.0° 東経 135.0° 深さ -	房総半島より九州東岸にまで大津波が襲来 全体で死者3,000人、家屋全壊10,000戸、半壊40,000戸、 焼失6,000戸、流出15,000戸 香川県では、死者5人、負傷者19人、倒壊家屋2,961軒 地震による津波の高さは1尺(30cm余り)でしたが、満潮と重なり、県東部沿岸で甚大な被害
南海道地震 1946年12月21日 (昭和21年)	M8.0 震度 高松5 多度津5	紀伊半島沖 北緯 33°02' 東経 135°37' 深さ 20km	津波は房総半島から九州に至る沿岸を襲う 全体で死者1,362人、行方不明102人、負傷者2,632人、 家屋全壊11,506戸、半壊21,972戸、焼失2,602戸、 流出2,109戸、浸水33,093戸 香川県では、死者52人、負傷者273人、家屋全壊608戸、 半壊2,409戸、道路損壊237カ所、橋梁破損78カ所など

注) 高松地方気象台の調査による(参考文献:「新編日本被害地震総覧」東京大学出版会)

また南海トラフを震源域とする南海地震(マグニチュード8.4)が、発生したときの被害想定は、次のようになっています。

地震動予測

市内の震度は5弱～6強になると予測されます。平野部を中心に広い範囲が震度6弱、地盤の軟弱な所では震度6強、固い地盤である山地と高位段丘(基盤露出部)では震度5弱程度の揺れが予測されます。

津波予想

市の沿岸部に到達するのは、地震発生後3～4時間前後となり、津波水位(津波高+満潮位等)は詫間地区でT.P(東京湾平均海面)+3.1mと予想されています。また、浸水域は詫間地区、三野地区、仁尾地区の沿岸部とされています。

被害予測

県全体での全壊棟数は約4,600棟(0.6%)、半壊棟数は17,400棟(2.4%)で、死者数は県全体で約200人、負傷者数は約3,300人と予想されています。なお、死者のほとんどは、延焼ではなく建物倒壊によるものとされています。

注) 上記の内容については県のホームページでご覧になれます
<http://www.pref.kagawa.jp/bosa/>
 (参考文献:「香川県南海地震被害想定調査の概要」香川県)

あたりまえのこと…いつでもできる…だからこそ

今のうちに準備を・・・

- 家族の防災会議・・・・・・・・・・ 災害時の役割分担を決めて、避難場所や避難経路を確認する
- 非常持ち出し品・・・・・・・・・・ 飲料水・非常食・ラジオ・懐中電灯・現金など、すぐに持ち出せるようにリュックなどにまとめておく
- 家具などの転倒落下防止・・・・・・ タンスや本棚などはL型金具を使って壁の棧に固定する(家具の固定道具は、お近くのホームセンターや消防用設備・用品を取り扱う業者などで購入できます)倒れた場合に備えた配置を考える
- 災害時要援護者登録制度・・・・・・ 要介護認定者や障害者、65歳以上の一人暮らしの人などは、災害時要援護者登録ができます(次ページ参照)

地震が起きたら・・・

- まず身の安全を・・・・・・・・・・ 揺れを感じたら、丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠す
近くに座布団などがあれば、頭を保護する
- 出火を防ぐ・・・・・・・・・・ 使用中のガス器具、ストーブなどは素早く火を消す
- 落下物などに注意・・・・・・・・・・ 狭い道路や塀ぎわなどは屋根瓦などが落ちてきたり、ブロック塀が倒れたりする恐れがあるので近寄らないようにする
- 沿岸地域の人は・・・・・・・・・・ 津波の危険性があるので、迅速に避難する

避難のときは・・・

- 近くの指定避難場所へ・・・・・・・・ 非常持ち出し品のリュックを背負い徒歩で避難する
- 正しい情報の入手・・・・・・・・・・ ラジオやテレビなどの情報を確認する
市役所、消防署などの広報や指示に従い、冷静に行動する
- 家族や友人の安否確認・・・・・・・・ 携帯電話等がつながりにくくなれば、災害用伝言ダイヤル「171」を利用する
- 地域での見守り・・・・・・・・・・ 隣近所だけで人が居ればお互いに助け合い、一緒に避難する

あなたの笑顔を

まもりたい!!



三豊市総合防災マップを先月号と一緒に各家庭へ配布しています。自分たちの地域の状態や災害に関する知識を正しく理解し、自主防災にお役立てください。